

平成 22 年 4 月 1 日

生後、数ヶ月後から 5 歳ぐらいまでの子供は、からだに病気にかかりやすく大変デリケートです。子どもの病気の原因として、もっとも多い菌のひとつに肺炎球菌があります。この肺炎球菌の感染予防にはワクチンが有効です。

今回は、「肺炎球菌ワクチン」についてお話をしたいと思います。

●「肺炎球菌」ってなに？

肺炎球菌は、身の回りにたくさん存在しています。子どもの多くが鼻の奥や気道に菌をもっています。保菌しているだけでは問題ありませんが、残念ながら小さな子どもは肺炎球菌に対する抵抗力をもっていないので、比較的簡単に肺炎球菌に感染してしまいます。

また、肺炎球菌はまわりにとってもかたい殻があるので、からだを細菌から守ろうとはたらく白血球によってやっつけることがむずかしい、毒性の強い菌です。

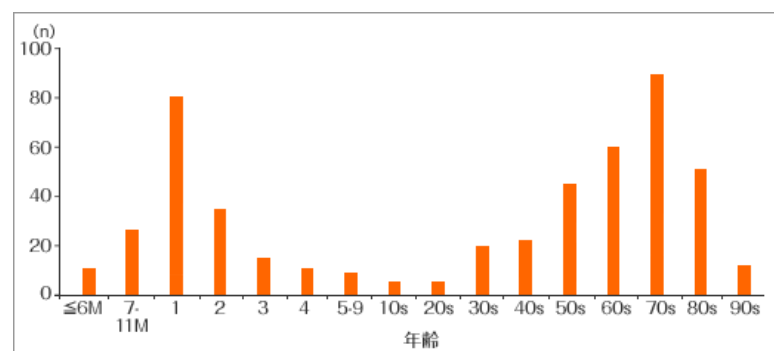
●肺炎球菌に感染すると・・・

肺炎球菌は名前のおり、大人では肺炎になることが多い菌です。2 歳以下の子どもの場合、肺炎のほかにも中耳炎や、菌が脳を包む膜にまでいく細菌性髄膜炎という病気になることがあります。

肺炎球菌による細菌性髄膜炎はときに命にかかわったり、難聴やマヒなどの後遺症が残る場合もある怖い病気です。はじめは発熱以外にほとんど症状がなく、カゼと区別がつかないため、早めの発見がむずかしいといわれています。

●かかりやすい年齢は？

肺炎球菌の感染症は、とくに子供と高齢者が要注意です。



縦軸：肺炎球菌による重い感染症の頻度 / 横軸：年齢

生方公子：日医雑誌 138(4)：715, 2009 より引用改変

●肺炎球菌ワクチンで予防しましょう！

肺炎球菌による感染症は、肺炎球菌ワクチンで予防できます。

これまで肺炎球菌ワクチンは、2 歳以上で肺炎球菌による感染症のリスクが高い人（高齢者や基礎疾患のある人など）を対象に接種されてきました。しかし、2 歳未満の乳幼児に関しては、これまでのワクチンでは十分な効果を発揮することができないため、接種の対象ではありませんでした。



2010 年 2 月、ようやく子供用(2 ヶ月以上、9 歳以下が対象)の肺炎球菌ワクチンが日本で発売され、接種可能となりました。

●新しい子供用の肺炎球菌ワクチンの安全性は？

子どもの肺炎球菌ワクチンはすでに世界 100 カ国近くで取り入れられ、10 年前に発売されて以来、世界で何千万人もの子どもに接種されています。

子どもの肺炎球菌ワクチンについては、WHO(世界保健機関)がすべての国での定期接種をすすめています。

●ワクチンの接種開始時期と接種回数

ワクチンの接種回数は年齢により異なります。標準は、生後 2 か月以上から 7 か月未満に接種開始し、合計 4 回接種します。DPT(ジフテリア・百日せき・破傷風混合)ワクチンやヒブワクチンとの同時接種も可能です。

<接種開始時期と接種回数>

生後 2 か月以上ー7 か月未満 (合計 4 回)

初回免疫：27 日間以上の間隔で 3 回 (3 回目は 12 ヶ月未満までに)

追加免疫：3 回目接種から 60 日間以上の間隔で 1 回 (12ー15 ヶ月の間に)

7 か月以上ー12 か月未満 (合計 3 回)

初回免疫：27 日間以上の間隔で 2 回

追加免疫：2 回目接種から 60 日以上の間隔で 1 回 (12 ヶ月になった後に)

1 歳以上ー2 歳未満 (合計 2 回)

2 回目は、1 回目接種から 60 日間以上の間隔で

2 歳以上ー9 歳以下 (1 回)

<参考> ワイス株式会社ホームページ 子供と肺炎球菌.jp <http://haienkyukin.jp/>
プレベナー水性懸濁皮下注 製品情報概要